

大魔神

新同井康隆

女 魔 神



筒井康隆（つつい・やすたか）

一九三四年大阪府生まれ。同志社大学文学部卒業。一九六〇年S.F.同人誌「N.U.L.」を主宰。同誌に発表した「お助け」が江戸川乱歩に認められ、作家活動を始め。一九九一年から九二年にかけ、朝日新聞に連載した「朝のガスバール」（日本S.F.大賞受賞）はパソコン通信を使った双方向の読者参加型メタフィクションとして話題になった。九三年、高校教科書に採用された旧作が差別を助長するとの抗議を受けたのをきっかけに断筆宣言。出版社の自主規制に抗議して断筆。九六年二月、出版社と「寛書」を取り交わし断筆を解除した。主な作品に「ベトナム観光公社」「アフリカの爆弾」「大いなる助走」「虚人たち」（泉鏡花文学賞受賞）「虚帆船団」「夢の木坂分岐点」（谷崎潤一郎賞受賞）「文学部唯野教授」「パブリカ」「ヨッパ谷への降下」（川端康成文学賞受賞）「わたしのグランパ」（読売文学賞受賞）などがある。また、フランス政府よりシュヴァリエ章、バヅリール賞を受ける。「筒井康隆全集」（第一期二四巻）が刊行されている。映画、演劇、テレビドラマへの出演などでも活躍。

大魔神

著者・筒井康隆／第一刷・二〇〇一年五月三一日

発行者・松下武義／発行所・株式会社徳間書店 〒一〇五―八〇五五 東京都港区東新橋一―一―一六 電話（〇三）三五七三―〇一一（大代表） 振替〇〇一四〇―〇一四四三九二／本文印刷・図書印刷株式会社／付物印刷・近代美術株式会社／製本所・大口製本印刷株式会社／定価は帯・カバーに表示してあります。乱丁・落丁はお取り替えます。〈担当編集・大野修一〉

© Yasutaka Tsutsui 2001 Printed in Japan

ISBN4-19-861348-6

大庭秀

装丁 神崎夢現

挿画 沙村広明

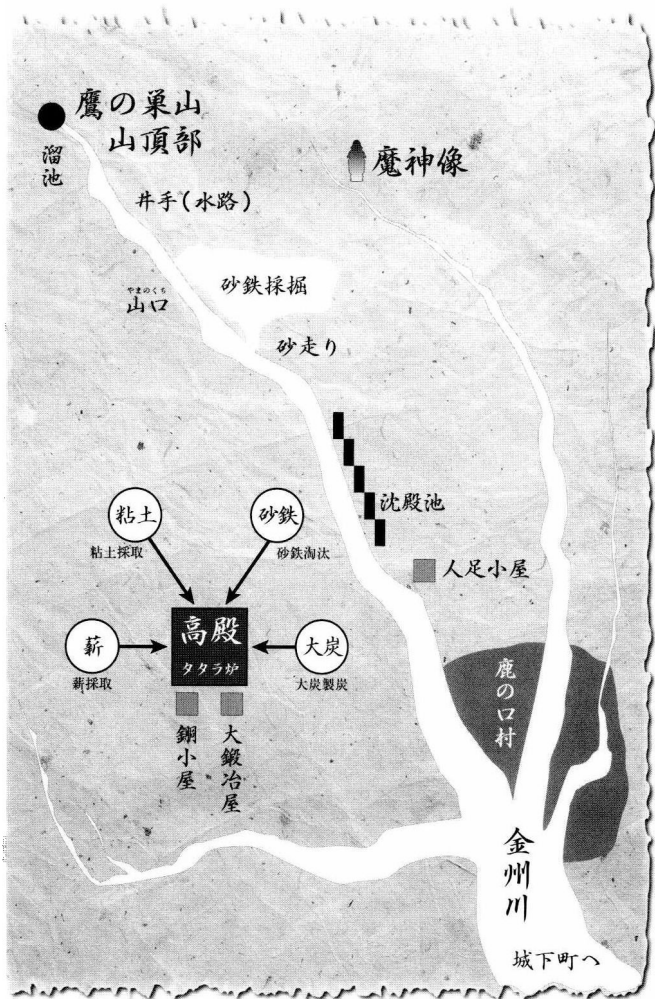
地図 高木信義

登		場		人		物	
片倉 貞直	43	因幡・白石藩藩主					
輝 姫	18	その娘					
輝 姫	3	少女時代					
篝火	46	輝姫の乳母					
石出 帶刀	57	白石藩家老					
新十郎	20	その嫡男					
新十郎	5	少年時代					
平 三	23	石出家使用人					
信 七	23	石出家使用人					
喜平次	48	石出家中間					
武藤 孫右衛門	57	白石藩家老					
文兵衛	21	その嫡男					

備前屋徳右衛門	61	商人
他、鹿の口村百姓たち	48	その女房
お 咲	52	鹿の口村百姓
吾 作	10	伍助の息子
銀 作	18	伍助の娘
お 篠	40	伍助の女房
お 仲	48	鹿の口村鍛冶職人
伍 助		
他、白石藩士・町役人など大勢		
又 平	45	高札番
小暮 格之丞	23	白石藩士
福島 栄三郎	23	白石藩士
柿崎 重兵衛	45	白石藩士・山内役人
文兵衛	6	少年時代

ろく	さぶ	利助	権八	義助	お初	平次	おつる	留造		服部半蔵	丸木戸佐渡		三吾	弥六	宗十
21	21	26	26	32	31	35	43	48		53	35		26	31	33
同・人足	同・人足	同・小間物屋	同・鳶職人	同・左官	同・女房	町人・表具屋	その女房	町人・大工		公儀隠密	剣客・備前屋の用心棒		同	同	備前屋の下回り

升 七	60	居酒屋の親爺
他、白石城下町町人たち		
団 六	49	山内・村下(技師長)
勘 八	23	鉄砲鍛冶職人
徳 七	24	山内・人足
寛 蔵	23	山内・人足
他、山内鍛冶職人・鉄砲鍛冶職人・人足たち		
歌い手		かぶき者
他、かぶき者・商人など大勢		
大 魔 神		



●慶長八年。家康が江戸幕府の初代將軍となつたばかりの年であつたが、まだ制度は確立されず、地方にはまだ、戦国時代の下克上げこくじやうの氣風が残つていた。

S 1

いなば
因幡・白石藩の城下町。

S 2

居酒屋。十数人の町人が昼間というのに酒を呑み、賑にぎやかに談笑している。

半蔵 (実は公儀隠密) もし町の衆。えらく景氣がよさそうじゃないか。あたし

や旅の者で何も知らねえんだが、さっきからお前さんたちが「講」「講」
つて言つていなさるその「講」つてのは何ですかい。

留造 旅の人にやわからねえだろう。おれたちのやつて「講」つてのはな、ま

ず誰かが十人の仲間を作つて皆から金を集める。その十人も、それぞれ十
人に声をかけて金を集める。その十人も、またそれぞれ十人の子を作つて

金を集める。これを次つぎと繰り返して、集めた金はすぐ上の親に納める。最後にやあすべての金が講元に集まるが、こいつはどれくらい大金になる。で、ある日にちを限って、子の集めた金高によって、戻し金が講元から子へ下されるって寸法だ。

半蔵（不審げに）　ちよいと待ってくれ。それじゃいずれば、子になるやつがいなくなつちまわないかい。

平次　おう、旅の人。ケチつけようってのかい。親やつてる奴が別の者の子になつたっていいんだから、子がいなくなるわけはねえだろう。

義助　それによ、勸進元は町一番のお大尽、備前屋さんだ。金がない時には掛け金の三倍までの金を貸して下さる。心配することはこれっぽっちもねえんだ。

皆、「そうだそうだ」と頷く。

権八（入ってきて）　おう。みんな。金州川かなすにおかしなもんが流れてきたぜ。

金州川。西町橋の上から町人たちが見下ろしている。

○濁流の中、橋桁^{はしげた}に大魔神の右手首が引つかかっている。水から拳^{こぶし}を上
に突き出して、まるで何かに対して激しく怒っているように見え
る。

○橋の上。平三と信七の漫才口調の問答を、周囲の町人が聞いている。

平三　こらきつと、一昨日の大雨で、鷹^{たか}の巢^す山から流されてきよったんやで。

信七　でっかい手やなあ。こらいったい何やろな。

平三　そらきつと、山の上にごつつい石の銅像があつて。

信七　石の銅像、ちうもんがあるかい（みな笑う）。

平三　きつとそいつから落ちたんや。手だけでこないに大きいんやから、きつと

ご本尊は。

信七 ああ。そらきつと、でかいやろなあ。

周囲の町人、おう、と感嘆する。

鷹の巢山。山の斜面の林道を銀作（少年）が走り、そのあとを追って姉のお篠が駈けていく。金州川。西町橋の上から町人たちが見下ろしている。

●メイン・タイトル「大魔神」。

鉄の製錬所（高殿内部）。大勢の職人がタタラ炉の操業をしている。

○番子歌を歌いながら天秤鞆の鳥板を踏んで送風をする番子（送風労働者）たち。

○炉の保土穴を覗き、砂鉄の装入をする黒装束の村下（技師長）の団六。

○炭坂すみさか（村下の補佐）の指揮で、炉に大炭を挿入する炭焚すみなきたち。

●以上をタイトル・バックとしてメイン・キャスト及びメイン・スタッフ。

高殿内部に立ち、操業を見守る武藤文兵衛（家老・武藤孫右衛門の嫡男）と、柿崎重兵衛。

武藤文兵衛 わが藩の精錬技術に他藩は及ばぬ。これも父上の功績じゃ。

柿崎重兵衛 おかげで徳川さまのお覚えもめでたいとか。結構なことでございます。

団 六 もし柿崎さま。薪まきと大炭が不足してまいりました。

重兵衛 またか。

団 六 へい（去る）。

重兵衛（文兵衛に） 武藤さま。これで薪や大炭が充分ございましたら、申し分ご

ございませんなあ。

文兵衛 重兵衛。村や城下町で人足を募り、鷹の巣山に行かせてどんどん伐採させ

い。タタラ炉の火を消してはならん。

重兵衛 ははあ。

文兵衛 では次に、大鍛冶屋おおかじやを見回ろうか。

重兵衛 ははっ。

大鍛冶屋。

○左下さげ。前鞆を差す職人。

○本場。鍛冶職人の伍助が、手子四人に槌つちを振らせながら鉄を金床に挟みあげている。後鞆差しが送風している。

○文兵衛と重兵衛がやってくる。